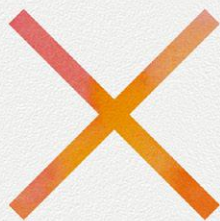


神奈川県ともいきアートサポート事業



創作



地域 展示



令和2年度事例集

事業趣旨・概要

県では、「ともに生きる社会かながわ憲章」の普及啓発を通じて、障がい者の社会参加を妨げるあらゆる壁、偏見や差別の排除を目指すとともに、障がい者が文化芸術活動など自ら楽しむための取組みを推進しています。

この取組の一環として、県は、憲章の理念に基づき、障がいの程度や状態に関わらず、誰でも文化芸術を鑑賞、創作、発表する機会の創出や環境整備を行うため、「ともいきアートサポート事業」を令和2年度から開始し、「ともに生きる社会かながわ」の実現を目指しております。

本事業は、県内のアート団体、大学や美術館と協働・連携しながら、アート作品の鑑賞・発表の機会の創出に取り組むものであり、令和2年度は、国内外で活躍するアーティストが県内4地域の県立の特別支援学校に出向いて、児童・生徒と一緒に創作活動に関わり、そこで創作された作品等を広く県民に鑑賞してもらえるよう各地域で展示を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、特別支援学校でのワークショップの実施が2学期に後ろ倒しとなり、また、展示会の開催時期が、一部は年末や年明けに延期の上、開催することを余儀なくされ、関係者の皆様には、コロナ禍での調整に大変御苦勞をおかけしました。

また、触る展示については、特に、強固な感染防止策をとる必要が生じ、入念な措置を講じながら、無事、開催を全うし、今般、令和2年度の実績を事例集という形でまとめ、広く周知する運びとなりました。

ここに改めて、関係各位に深く感謝申し上げます。

神奈川県福祉子どもみらい局共生推進本部室

もくじ

02 事業趣旨・概要

川崎市

04 創作：studio FLAT× 高津養護学校生田東分教室

06 地域展示：「gallery FLAT」展

平塚市

08 創作：東海大学 × 平塚盲学校

10 地域展示：「手の世界制作」展

小田原市

12 創作：アール・ド・ヴィーヴル × 小田原養護学校

14 地域展示：「ともに生きるアート」展 in 小田原

茅ヶ崎市

16 創作：茅ヶ崎市美術館 × 茅ヶ崎養護学校

18 地域展示：「ふれて すすむ まえへ -音と光と香りとともに-」展

20 成果まとめ

21 おわりに



studio FLAT



高津養護学校生田東分教室

川崎市内のアーティストの育成と発掘を目的に高津養護学校東分教室の生徒とパネル作品を描くワークショップをおこないました。テーマは自由にそれぞれが好きなものを描きました。

回数	1回目	2回目	3回目
実施日	令和2年8月31日(月)	9月14日(月)	10月12日(月)
参加者	11人	10人	11人
実施団体	NPO法人studio FLAT		
実施校 / 対象	神奈川県立高津養護学校生田東分教室 / 高等部1年生		
アーティスト	大平 暁 (studio FLAT 理事長)		



学校からのコメント

自信のなさから制作活動に苦手意識を持った生徒も何人かいましたが、アーティストの方と話すうちに、自分の表現したいものを見つけ、気づくと夢中になりながらキャンパスに自分の思いを表現していました。何度も下絵を描きなおし、納得がいく作品を生み出そうとする生徒達の顔が、とても印象的でした。オンライン展示会では、自分の作品を誇らしげに紹介して、互いに褒めあっていました。素敵な経験になりました。



アーティストからのコメント

studio FLATアーティスト達は地域や養護学校生徒との交流を目標に制作をしました。コロナ禍の影響で対面など難しい状況でしたが、ワークショップの手伝いやオンライン展示、密をさけて展示会場での案内など行いました。いろいろな工夫をしてピンチをチャンスへ変え、地域や来場者の方々へアートで元気を届けることができました。



神奈川県立高津養護学校生田東分教室 [URL] <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takatsu-sh/>

高津養護学校生田東分教室は平成22年に生田東高校内に開設された分教室です。ワークショップには1年生11名が参加しました。「絵を描くのが好き!」と、美術の授業や美術部の活動を楽しみにしている生徒が多いです。他にも、自主製品のイラストなど、それぞれのセンスを生かした作品作りに、日々励んでいます。

大平 暁（おおだいら・さとる）

1971年生まれ。多摩美術大学絵画専攻修士課程修了。共立女子大学非常勤講師、NPO法人studio FLAT理事長。アートが人をつなぐをテーマに作品制作を行っています。同時に社会活動でもあるNPO法人studio FLATを運営し、障がいあるなしに関わらずFLATにアート作品を見て、作品の魅力ダイレクトに感じてもらう活動を行っています。アートが人をつなぎ、新たな未来をデザインし、未知なる表現の価値創出を続けています。



「gallery FLAT」展

gallery FLAT展とは 障がいあるなしに関わらず、作品の魅力伝え、地域の人達とアートを通じて交流する、インクルーシブな展示会です。

展示会場	ギャラリーFLAT（川崎市幸区北加瀬2-11-3 コトニアガーデン新川崎 SOUTH棟3F）
展示期間	令和3年3月6日(土)～11日(木)
来場者数	100人 ※オンライン 500人



インターネットでも開催

ワークショップ、展示を通して

今回は高津養護学校生田東分教室の生徒11名とstudio FLATアーティスト12名による障がいあるなしに関わらず、作品の魅力伝え、地域の人達とアートを通じて交流する、インクルーシブな展示会を行いました。出張指導にて分教室の生徒と交流しながら、制作ができたのはとてもよかったです。

studio FLATの目標でもある、新たな才能の育成と発掘にもつながりました。今後この才能ある生徒達が卒業後も活躍できるようにstudio FLATの活動を広げていきたいと思ひます。

NPO法人studio FLAT



アート活動を通じ、地域社会と連携。私達studio FLATはSDGsへの取組をアートを通じて行っております。アートが人をつなぎ、障がいあるなしに関わらず特別な呼称などない共に生きる社会を目指しています。SDGsのゴールをめざし様々なアート活動を推進しています。

[所在地] 神奈川県川崎市幸区北加瀬2丁目11番3号 コトニアガーデン新川崎 SOUTH棟3F

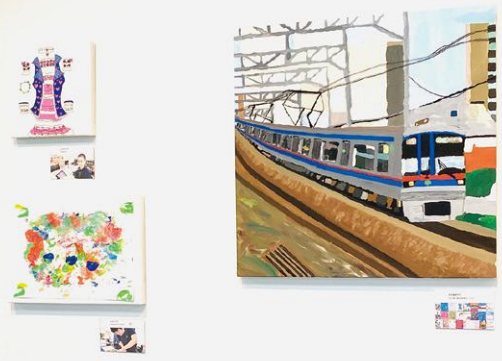
[URL] <https://studioflat.or.jp/>

ともいきアート×FLAT



studio FLAT

ともいきアート×FLAT





東海大学



平塚盲学校

高見直宏さんを講師に迎え、子ども達は指やヘラで水粘土を掘り、石膏を流し込んで、心のかたちを完成させました。参加した学生にとっても貴重な体験になりました。コロナ禍で中止となったデザイナー・桑田知明さんの飛び出す絵本ワークショップは次年度に再チャレンジします。

回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
実施日	令和2年10月12日(月)	10月19日(月)	10月26日(月)	11月2日(月)	12月3日(木)
参加者	4人	4人	4人	4人	4人
実施団体	学校法人東海大学教職資格センター				
実施校 / 対象	神奈川県立平塚盲学校 / 小学部				
アーティスト	高見 直宏 (彫刻家)				



学校からのコメント

子ども達にワークショップの話をする、とても期待を持った反応が見られました。アーティストの高見さんとの活動が始まると、とまどいの表情から、子ども達みんなが楽しそうな表情に変わっていったのが分かりました。水粘土の塊に思い思いに自分の心の形を掘り進め、石膏を流し込み、硬化する時の温度の変化等も実際に触れました。粘土を剥がして自分の心を取り出した時には「不思議と感動」の感覚を味わった子ども達でした。



アーティストからのコメント

この度は先ず、このような機会を下さいました、関係各位、ワークショップをサポートして頂いた、東海大学スタッフ、平塚盲学校の先生方に、厚く御礼申し上げます。私自身、今回のワークショップを形にできた事、また児童の皆さんと、楽しい時間を共有できた事は、非常に貴重な経験となりました。私の手には未だに、4名の児童達が制作した、作品の感触が残っています。児童の皆さん、素晴らしい彫刻作品をありがとうございました！



写真(P8~9)：©飯村昭彦



神奈川県立平塚盲学校 [URL] <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hiratsuka-sb/>

平塚盲学校は1910年に私立中郡盲人学校として始まり、1948年、現在の県立平塚盲学校となり、2020年に創立110周年を迎えました。県立唯一の視覚障害教育部門の特別支援学校として幼稚部・小学部・中学部・高等部まで一貫した教育を行っています。また専門教育を主とした理療科、専攻科では職業教育の充実に取り組んでいます。

高見 直宏（たかみ・なおひろ）

1973年東京生まれ。2002年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。学生時代に網膜色素変性症であることが発覚し、その後症状の進行に応じて、写実ではないイメージの形を追うように。主に木を素材とした彫刻を制作、発表。現在、代々木ゼミナール造形学校主任講師、東京医科歯科大学非常勤講師、筑波大学非常勤講師。



「手の世界制作」展

「手の世界制作」展は、ともいきアートの成果を公開する展覧会で、子ども達の彫刻や彫刻家の作品など23点を展示しました。見学鑑賞会では展示されている自分の彫刻や他の作品を子ども達と一緒に楽しみました。

展示会場	東海大学松前記念館（平塚市北金目4-1-1）
展示期間	令和3年3月1日(月)～31日(水)
来場者数	1,043人



ワークショップ、展示を通して

平塚盲学校の子ども達と、高見直宏さん、黒川弘毅さん、伊藤一洋さん、高木謙造さんら彫刻家との夢のコラボレーションが実現しました。盲学校での彫刻ワークショップは毎回、刺激的で、子ども達は制作を通して一人ひとりが彫刻家でもあることを肌で感じとりました。サポートスタッフとして参加した学生達も、自分達とは異なる世界のあり方を体験的に学びました。この世界は多様な魅力で満ち溢れています。ご協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



東海大学教職資格センター

東海大学教職資格センターは教職、学芸員、司書、社会教育主事を目指す学生を育成しています。学芸員課程では、博物館の専門的職員である学芸員の養成教育の一環として、学外の博物館や近隣自治体などと連携して、正課外の実践教育プログラムに力を入れています。今回は学内の松前記念館と連携し、展覧会を開催しました。

【所在地】神奈川県平塚市北金目4-1-1 【URL】<https://www.u-tokai.ac.jp/>



写真(P10~11) : ©飯村昭彦



アール・ド・ヴィーヴル



小田原養護学校

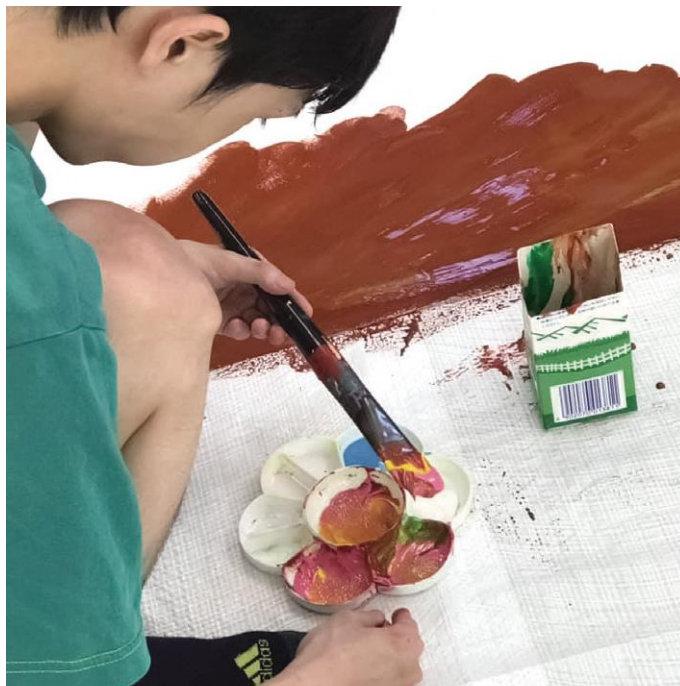
重度の障がいのある児童生徒の皆さんと先生、保護者も一緒になって、5メートル四方の画用紙に絵具を使って創作しました。言葉や身体が不自由であっても、コミュニケーションや手足を使って全身で表現する児童生徒達の姿が見られました。

実施日	令和元年7月に3回実施
実施団体	認定NPO法人アール・ド・ヴィーヴル
実施校 / 対象	神奈川県立小田原養護学校 / 肢体不自由教育部門、小中高等部
アーティスト	中津川 浩章（アートディレクター）



学校からのコメント

教室一面に広げられた真っ白な1枚のキャンバスに、全身を使いダイナミックに活動し、終わるころにはみんな絵の具まみれ。一人ひとりの活躍で、素敵な作品が完成しました。後日、文化祭ステージ発表の背景画として利用し、たくさんの方々にも見ていただきました。「絵を描くのって楽しい!」「もっとやってみたい!」等、みんなの笑顔があふれ、とても充実したワークショップになりました。スタッフの皆様ありがとうございました。



アートディレクターからのコメント

ワークショップや個々の表現活動を通じて障がいがある人達の内側にある感情や感覚が可視化され、展覧会によってその意味や価値をさまざまな人達と感じ合うことができました。更にギャラリートークを通じて作品の意味や背景もみえてきたのです。それらがつながって初めて全体が見えてきて障がい者アートはみんなのもの・社会の財産になっていくのです。本当は障がいがある人達とは以前からずっと一緒に生きているのです。



神奈川県立小田原養護学校 [URL] <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/odawara-sh/>

小田原養護学校は昭和53年に知的障害教育部門単独校で開校し、昭和61年に肢体不自由教育部門を併置、平成23年に大井分教室、令和3年に湯河原校舎が開設しました。学校ランドデザインに「一人ひとりが輝く学びの場～豊かな学びと、地域に根ざした安心できる生活の実現～」を掲げ、教育活動の充実に取り組んでいます。

中津川 浩章（なかつがわ・ひろあき）

美術家、アートディレクター、キュレーター。「埼玉県障害者アート企画」展、日本財団 DIVERSITY in the ARTS 公募展、アール・ド・ヴィーヴル、工房集のアートディレクター、川崎市岡本太郎美術館「岡本太郎とアールブリュット」展キュレーション。表現活動研究所ラスコー代表、一般社団法人 Art Inter Mix 代表、一般社団法人ゲットインタッチ理事。

[URL] <https://www.lascaux-labo.com/>



「ともに生きるアート」展 in 小田原

ギャラリーNEW新九郎にて、美術家中津川浩章氏によるギャラリートークが行われ、障がい者のアート活動や特別支援教育について講演いただきました。

展示会場	ギャラリーNEW新九郎（小田原市中里208 小田原ダイナシティWEST MALL 4F）
展示期間	令和2年12月16日(水)～21日(月)
来場者数	400人 / ギャラリートーク参加者100人



ワークショップ、展示を通して

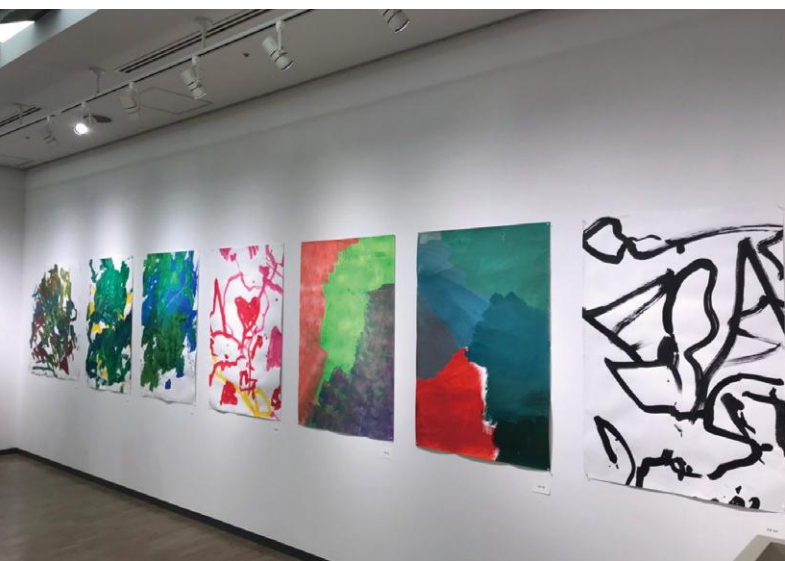
小田原養護学校へ3回訪問し、小中高の肢体不自由教育部門のみなさんを対象に、アートワークショップを実施しました。身体の可動域を最大限に活かして創作する姿が見られました。そこには、言葉や身体の不自由を感じさせない力強い表現がありました。完成した作品を多くの人にご覧いただく場をキュレーションし、社会へ発信しました。



認定NPO法人アール・ド・ヴィーヴル

地域の障がいがある子どもから大人を対象とした創作活動の場を提供するNPO、障害福祉サービス事業所を運営し、アートを事業化した就労支援と生活介護事業を行っています。また、誰でも参加できる多様なワークショップを提供しています。

〔所在地〕神奈川県小田原市久野403-17 〔URL〕<http://artdevivre-odawara.jp/>





茅ヶ崎市美術館



茅ヶ崎養護学校

小さな木片に触れると音が鳴るマスラックスさんの作品《うつしおみ》の一部を教室に持ち込み、先生と中学生の皆さんに向けて、ダンサーの岡田智代さんとともに音と身体に焦点をあてたワークショップを行いました。

回数	1回目	2回目
実施日	令和2年10月13日(火)	10月20日(火)
参加者	7人	9人
実施団体	公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団 茅ヶ崎市美術館	
実施校/対象	神奈川県立茅ヶ崎養護学校/中等部	
アーティスト	MATHRAX [久世祥三+坂本茉里子](アートユニット)、岡田智代(ダンサー)、松永勉(映像作家)	



学校からのコメント

作品の持つ木のぬくもりと柔らかな音色に触れ、子ども達がリラックスして自由に表現していました。日ごろはぐっと握りしめている肢体不自由のある子ども達の手がゆっくりと開いて自分から作品に触れようとし、音が苦手な知的障がいのある子ども達が作品の奏でる音にはじっと耳を傾けて集中していくなど、子ども達が五感をフルに活用して作品を体験し、日ごろ見せない表情や動きで作品の感想を表現してくれていました。

アーティストからのコメント

茅ヶ崎養護学校でのワークショップでは、作品《うつしおみ》の一部を教室に設置し、ダンサーの岡田智代さんにサポートいただきながら、生徒の皆さんと自由な体験を楽しみました。何かに触れるという行為は、ものの形態を詳細に確かめることですが、その時に連続的に紡がれてゆく思考や気持ちの変化もまた、創造にとって大切な要素だと実感しました。生徒の皆さんの素直で弾けるような動き、周囲への心遣いや優しさは、唯一無二の音楽のようでした。

写真(P16~17)：©八幡宏



神奈川県立茅ヶ崎養護学校 [URL] <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/chigasaki-sh/>

茅ヶ崎養護学校は肢体不自由教育部門と知的障害教育部門を併せ持つ特別支援学校です。小学部・中学部・高等部を設置し、220名(令和3年度)の児童生徒が、茅ヶ崎市、寒川町、藤沢市から通学しています。開校当初から、「地域に根ざす開かれた学校」という理念を掲げ、共生社会の実現に向け取り組んでいます。

MATHRAX (久世祥三+坂本茉莉子) (ますらっくす (くぜ・しょうぞう+さかもと・まりこ))

電気、光、音、香り、また、木や石などの自然物を用いたオブジェやインスタレーションの制作を行う、久世祥三と坂本茉莉子によるアートユニット。デジタルデータと人間の知覚との間に生まれる現象に注目し、人が他者と新たなコミュニケーションを創り出すプロセスを探る作品を制作しています。 [URL] <https://mathrax.com/>



©kenji kagawa

「ふれてすすむまえへ -音と光と香りとともに-」展

美術館ではワークショップを撮影した松永さんの映像作品を上映するとともに、音と光と香りが連動する《うつしおみ》全体を展示。入念な感染対策のもと「触れる」「嗅ぐ」など五感による鑑賞を楽しんでいただきました。

展示会場	茅ヶ崎市美術館（茅ヶ崎市東海岸北1-4-45）
展示期間	令和2年11月14日(土)～12月6日(日)
来場者数	5,088人



写真：©茅ヶ崎市美術館

ワークショップ、展示を通して

例年開催する中学校美術作品展に合わせ、養護学校の中学生の“表現”が美術館という場で交差することを意識しました。作るだけではない多様な表現活動に触れていただくことで、私達一人ひとりが異なる身体や感覚をもち、物事の捉え方や表現方法も違うことに気づくことができたならという思いから企画しました。来館者からは、直接的な身体感覚の享受がはばかれるコロナ禍だからこそ五感を伴う鑑賞は意義深かったとの感想をいただきました。

茅ヶ崎市美術館



© Maki Hirose

茅ヶ崎市美術館は、1998年4月に開館しました。緑豊かな丘の上にたち、海街を感じさせる松を抜ける潮風、降り注ぐ太陽の光、軽やかに飛び立つ翼のような屋根が特徴的な建物です。茅ヶ崎ゆかりの作品展示や作品収集を行なうとともに、立地環境を活かした現代作家の展覧会や教育普及プログラムなども精力的に行なっています。

〔所在地〕神奈川県茅ヶ崎市東海岸北1-4-45 〔URL〕<https://www.chigasaki-museum.jp/>



写真：©八幡宏

成果まとめ

【創作・地域展示実績】

地域展示については、コロナ禍によるオンライン展示の追加等がございましたが、4か所で開催することができ、多くの県民へ鑑賞機会を提供することができました。また、アート団体等と県立特別支援学校との連携により、地域での文化芸術活動の支援にもつながりました。

◎ 創作（ワークショップ）

参加人数 計10日 延べ **68人**

所在地	川崎市	平塚市	小田原市	茅ヶ崎市
実施主体	NPO法人studio FLAT	学校法人東海大学 (教職資格センター)	認定NPO法人 アール・ド・ヴィーヴル	(公財)茅ヶ崎市文化・ スポーツ振興財団
実施教育機関	高津養護学校生田東分教室 高等部1年生	平塚盲学校 小学部	小田原養護学校	茅ヶ崎養護学校 中等部
参加人数	計3日 延べ 32人	計5日 延べ 20人	※令和2年度は実績なし	計2日 延べ 16人

◎ 地域展示

来場者数 延べ **6,631人**

所在地	川崎市	平塚市	小田原市	茅ヶ崎市
展示会会期	令和3年 3/6(土)~11(木)	令和3年 3/1(月)~31(水)	令和2年 12/16(水)~21(月)	令和2年 11/14(土)~12/6(日)
展示会場	ギャラリーFLAT	東海大学松前記念館	ギャラリーNEW新九郎	茅ヶ崎市美術館
来場者数	100人 オンライン 500人	1,043人	400人	5,088人

【広報実績】

県のたより12月号の1~3面で取り上げられたことにより、県民や当事者の反響も大きく、障がい者の文化芸術支援が図られました。



県のたより12月号



事業ウェブサイト

- ・「ともいきアートサポート事業」ウェブサイトの開設
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/m8u/tomoikiart.html>
- ・「県のたより12月号」：第1面~第3面に記事掲載
- ・「教えて!黒岩さん」(令和2年12月17日(木))：インターネット動画掲載
- ・「NHK首都圏ニュース8:45」(令和2年12月3日(木))：平塚盲学校での授業等を放送
- ・「小田原市広報誌12月号」：ギャラリーNEW新九郎での展示の開催記事
- ・「タウンニュース(茅ヶ崎)」：12月4日号 茅ヶ崎市美術館での展示の開催記事
- ・「川崎市広報誌2月21日号」：studio FLATのギャラリーでの展示の開催記事

おわりに

コロナ禍の中でも、ワークショップを無事開催することができ、普段の特別支援学校の授業とは異なる刺激、感動や達成感をアーティスト等の指導・助言などを通じて児童・生徒が経験をすることができ、未来のアーティストの誕生へ繋がる可能性を創出できたことが最大の成果であったと考えています。

また、県のたより12月号など、県の広報媒体を通じて事業のPRを行うことができ、当事者はもちろん、文化芸術に関心を寄せる多くの一般県民の方々に展示会へご来場いただき、広く障がい者の文化芸術の普及支援を図ることができました。

今まで、地域のアート団体等は、市町村、市町村立の学校との結びつきはあっても、県立の特別支援学校との繋がりには希薄な部分がありました。

しかし、今回、県の福祉関連の部署が県教育委員会を通じて各学校に繋ぐことで、新たな連携による地域での障がい者の文化芸術の活性化、可能性を広げる結果を生み出すことができました。さらに、該当市の広報誌での周知など、各市との連携も図ることができました。

このたびは、多くの県内の市町村、地域に令和2年度の好事例を伝えていきたいと考え、本事例集を作成しました。事例集の作成に御協力いただいた関係者の皆様に改めて御礼を申し上げます。

県内市町村の関係部署の皆様、アート団体の皆様、県立の特別支援学校の皆様が連携を深め、地域での障がい者の文化芸術の普及が県域全体に広がっていくことを願っております。

神奈川県福祉子どもみらい局共生推進本部室

ともいきアートサポート事業（創作×地域展示）令和2年度事例集

令和3年11月1日 発行

企画・編集 神奈川県福祉子どもみらい局共生推進本部室

制作 特定非営利活動法人S T スポット横浜

デザイン 水色デザイン

印刷 共進印刷株式会社

発行 神奈川県福祉子どもみらい局共生推進本部室

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

電話 045-210-4961

FAX 045-210-8854

©2021 神奈川県福祉子どもみらい局共生推進本部室

執筆者一覧（五十音順）

阿久津 由紀子（平塚盲学校）

大平 暁（studio FLAT）

沖津 有吾（平塚盲学校）

篠原 聡（東海大学教職資格センター）

清水 武彦（高津養護学校）

高見 直宏（彫刻家）

中津川 浩章（アートディレクター）

萩原 美由紀（アール・ド・ヴィーヴル）

廣瀬 忠明（小田原養護学校）

藤川 悠（茅ヶ崎市美術館）

MATHRAX（アートユニット）

吉田 豊（茅ヶ崎養護学校）

謝辞（五十音順、敬称略）

アール・ド・ヴィーヴル 株式会社ボンド ギャラリーNEW新九郎

公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団 茅ヶ崎市美術館 studio FLAT

東海大学教職資格センター 東海大学松前記念館

小田原養護学校 高津養護学校 茅ヶ崎養護学校 平塚盲学校

小田原市 小田原市教育委員会 川崎市 川崎市教育委員会

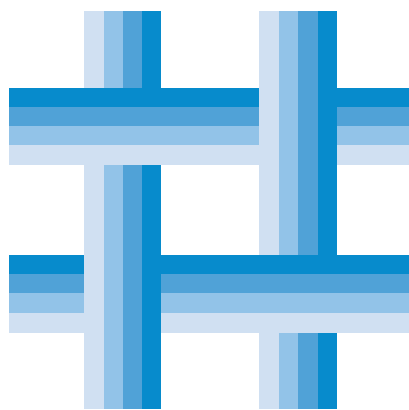
茅ヶ崎市 茅ヶ崎市教育委員会 平塚市 平塚市教育委員会

阿久津 由紀子 朝倉 徹 池田 美砂子 石川 夏与 大平 暁 岡田 智代 沖津 有吾 勝山 滋

加瀬 大 窪田 正男 桑田 知明 河野 美咲季 篠原 聡 清水 武彦 高見 直宏 田野倉 康一

中津川 浩章 萩原 美由紀 広瀬 浩二郎 廣瀬 忠明 藤川 悠 MATHRAX [久世祥三+坂本茉莉子]

松永 勉 三島 加津子 守屋 昌代 八幡 宏 山内 健資 吉田 豊



ともに生きる社会
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

ともに生きる 翔子